

① 完全には防ぐということはありませんので、正しく恐れて、意識することが大切です

本ガイドラインはコロナ対策下において東京都ドッジボール協会所属の審判員及び審判付随業務に携わるみなさんに意識していただくガイドラインで、コロナ対策として100%防ぐ約束するものではありませんが、意識することでコロナリスクを低くし、みなさんが安心してドッジボール活動を継続できるよう、審判員のコロナ対策に着目し推奨するものであり、競技規則・ルール等に踏み込んだものではありません。

大人ですら、つつい目鼻口を含む顔にふれてしまうことや、マスクの外側にウイルスが付着するとわかっているにもかかわらず、紐ではなくマスクの外側に触れてしまうことがあり、完全に防ぐことはできませんが、意識することで予防は可能です

ドッジボールに携わる者として意識をさせ、みなさんもそれを意識していただくことで出来る限り安全に審判活動とドッジボール活動を行えるようご理解ご協力いただきますようお願いいたします

② 普段の日常・家庭で日頃から意識していただきたいこと

日頃から、体調管理を行い、免疫力を上げるために、健康的な行動をとるよう心掛ける

こまめに手を洗い、タオルなどは自分以外が触れたものを使わず、手を洗えないときにはアルコール消毒する

目・鼻・口・傷口をさわらない（粘膜からウイルスが侵入させないため）

飲食前にうがいをこまめに行う・歯磨きを行う（口腔内にあるウイルスを体内に入れないため）

顔を洗うかウェットシートで顔等を拭く（身体についたウイルスを防ぐため。できれば着替えやシャワー・風呂に入る）

【外出時】3密を避け、コロナ感染リスクが高い店舗・施設などを利用は避ける

熱中症に気を付けながら、他人と接するときはマスクを着用する

③ 普段の練習時に意識すること、チームに意識していただきたいこと

練習前に体温を必ず測る習慣をつけ、体温が平熱より異常に高い場合は、練習に参加しない

練習に参加する選手、保護者など、体育館に出入りする全ての人の氏名・体温・体調を名簿等で記録できるようにする

靴を履きかえ終えてから手洗いまたはアルコール消毒する

こまめに水分をとる（これまで以上に多めに用意する）

水分をとる際、水筒に触れる前に、手洗いまたはアルコール消毒する

水分は自分専用にし、家族間であっても共有しない

【飛沫感染】

審判・指導・会話をする際は、距離・声量に注意し、適宜マスク等（下記例）を着用して行う

唾による飛沫感染予防のため、マスク・フェイスシールド・マウスシールド等の着用を推奨する

（但し、マスク・フェイスシールドは熱中症の観点から、種類や使用時間に注意して適宜をご検討ください）

汗による飛沫感染予防のため、タオルで髪をこまめに拭くことや、シャツを着替えることを推奨する

（また、夏用・スポーツ用の長袖シャツの着用もご検討ください）

指導時、ゲーム時の口にくわえるホイッスルは使用せず、電子ホイッスルなどを代用する

指導、会話する場合は、お互いが原則マスク等を着用の上、十分に距離を取り、できる限り短い時間で終わらせる

【接触感染等】

全ての持ち物に記名、マーキング等で、所有者が分かるようにする

目・鼻・口・傷口をなるべくさわらないよう意識する

滑り予防のため靴底を手で擦らないよう意識する（埃・汚れだけでなくウイルス・雑菌も多いので）

ボールをけらない（靴・床のウイルス・雑菌がボールに移るので）

ハイタッチ・グータッチに加え、ひじタッチも控える（汗が腕から手へ伝うので）

マスクを外す場合は、放置せず、ケース、ポケット、バッグなどに入れ、他人が触れないようにする

練習、ゲーム終了時、体育館の中の手で触りやすい部分をアルコール消毒してから帰る

④ 試合・大会・交流会について

政府や知事が定めるイベント開催制限を厳守し、参加チーム数、参加者を制限すること（現状は、施設の収容人数の50%以下）

試合ごとに消毒作業が必要なため、十分な試合間隔をとること

本人または同居者等で直近2週間以内に感染を疑われる体調不良者がでた場合は速やかに連絡すること

（人数が少ないから、他の参加者に負担をかけてしまうから、といった配慮からの参加は不要です。）

入館後速やかに大会当日の体調・体温を申告する（方法は各施設・主催者による）

体育館への入場者全員の氏名（可能であれば連絡先も）を記録する

体調が不良、平熱より異常に高い場合は、入館しない

コート責任者は、選手、監督、コーチの状態を把握し、体調が悪いと判断した場合は、直ちに試合を中断し退場をさせることができる

各自使用するマスクについては『予備も含めて』各自使い慣れたものを用意してくることを推奨する

入館後、控室への入室する前に、必ず手洗いまたはアルコール消毒する

靴を履きかえの度に、必ず手洗いまたはアルコール消毒する

コート設営後、必ず手洗いまたはアルコール消毒する

水分をとる際、クーラーボックス・ペットボトル・水筒に触れる前に、必ず手洗いまたはアルコール消毒する

審判会議等は換気のよい部屋か、アリーナや広い場所で行う

試合中、タイムを取り選手を座らせる場合は、選手と選手の間隔を十分に取って座らせること

ベンチに椅子を設置する場合は、1m以上間隔を開けること

チームが試合前中後、ミーティングを行う際も選手間の間隔に配慮し、原則マスク等を着用の上、できる限り短い時間で終わらせる

当面は電子ホイッスルの使用による運用を行い、旗の使用の運用は変更なし

なお、電子ホイッスル・旗・ストップウォッチ等の私物（自分専用）については、間違えないよう各自対応する

協会・主催者で用意したもの（タイマー含む）は使用者が変わるたびにアルコール消毒する

電子ホイッスル使用に伴う所作については、特別運用になるので、試行錯誤しながら運用する

ゲームの進め方、審判のスタイルについては、所作の特別運用に伴い、出来るだけ原則から外れない運用を模索する

唾による飛沫感染予防のため、マスク・フェイスシールド・マウスシールド等のいずれかを着用する

汗による飛沫感染予防のため、タオルで髪をこまめに拭くことや、シャツを着替えることを推奨する

1試合ごとに消毒されたボールを使用し、ヘッドアタックがあった場合も消毒されたボールと交換する

コートのモップ掛けを各大会で決めた間隔毎に行う

常に、窓や扉を開け換気を心がける。試合中、窓をカーテンでふさぐ場合は、各大会で決めた間隔毎にカーテンを開け換気すること

オフィシャルは、CM計時記録プラス補助者の必要最低限（最大4名）とし、間隔を保つため椅子に着席する

オフィシャルにおける記録用紙への記入に使う筆記用具はできる限り私物（自分専用）とする

監督サインは各チームで用意した筆記用具でサインしてもらう

控え審判は、人の通りが少ない位置に椅子を間隔を保って設置し、原則マスク等を着用の上、椅子に座って待機する

控え休憩を含め、会話する場合は、お互いが原則マスク等を着用の上、十分に距離を取り、できる限り短い時間で終わらせる

（マスク等の着脱については、熱中症予防の観点から個々人で差異があるので原則とします）

マスクを外す場合は、放置せず、ケース、ポケット、バッグなどに入れ、他人が触れないようにする